

2019 年度韓国留学体験談

21018105 本間国彰

私は 2019 年 8 月 31 日～12 月 26 日までの約 4 か月間、韓国で留学をしました。海外に 4 か月間生活することは、初めての経験だったため、楽しみもありましたが、正直、不安の方が大きかったです。文化や言葉の違いには慣れるまでに時間がかかりました。そんな私の 4 か月間の留学の体験談を紹介します。

寄宿舎は二人一部屋で生活していました。部屋にはキッチンやシャワー、冷蔵庫がありましたが、水道水が飲めないことや、トイレトペーパーが流せないことにはカルチャーショックを受けました。日本では普通にできることが韓国では普通ではなく、改めて日本の快適さに感心しました。寄宿舎周辺には、飲食店や居酒屋がたくさんあり、どの店も安くて、美味しく食事をしました。また、カフェが充実しており、テスト期間中はよくカフェで勉強をしていました。

大学の授業は朝 9 時から午後 1 時まで文法やリスニング、ライティングを中心に行いました。午後は曜日によって、韓国文化や音楽、映画の授業がありました。また、テコンドーやダンス、調理実習の授業もあり、どの授業も私たちが楽しめるように工夫されていて、毎回の授業が楽しみでした。最初の 1 か月は、新潟国際情報大学のメンバーだけでしたが、10 月からは色々な外国人と一緒に勉強しました。私のクラスには香港、ベトナム、ポーランド、サウジアラビアの人たちがいました。授業では、言葉が通じなく、苦労したこともありましたが、覚えたての韓国語をたくさん使って、コミュニケーションを取ることができました。そのおかげで、私は多くの外国人の友達を作ることができ、一生の経験になりました。

トウミ制度では、週 1 回程度、カフェで雑談をしたり、おすすめのお店でご飯を食べたりと、私の留學生活をサポートしてくださいました。休日には、地下鉄に乗り、有名な観光地を案内して頂き、韓国の文化や歴史について詳しく説明してくださいました。トウミ制度は、現地の学生と交流を深めることができる貴重な経験となり、留學生活をより一層楽しむことができました。

私は今回の留學を通して、日韓関係の悪さは全く感じませんでした。留學前は、現地の状況が分からず、日本で報道されているニュースを見て、不安になっていました。しかし、実際に現地に行くと、報道されていたこととは裏腹に、私たちの留學を温かく迎えて頂き、大変驚きました。よって、私は何事も目先だけの情報にとらわれず、自分の目で直接、確かめることが重要だと感じました。今回の留學でお世話になった先生方、仲間、両親には感謝をし、この経験をもっと色々な方々に伝えていきたいです。